

# 伊達市の概況

(平成28年度版)



(写真：開拓記念館に展示されている仙台藩一門亙理伊達家の甲冑)

# も く じ

第1章	伊達市の概況	
1	伊達市の成り立ち	1
2	位置と気象	3
3	人口・世帯数	3
第2章	伊達市の産業	
1	就業構造	6
2	産 業	6
(1)	農 林 業	7
(2)	水 産 業	9
(3)	商 業	10
(4)	工 業	11
(5)	観 光	12
第3章	その他	
1	道路の現況	16
2	上下水道の普及率	16
3	姉妹都市等の提携状況	16
4	市内指定文化財一覧	18
5	市内の主な公共施設一覧	19
6	伊達市のあゆみ	20
第4章	まちづくりの基本構想(第六次伊達市総合計画)	
1	将来像	24
2	政策の大綱	25

# 第1章 伊達市の概況

## 1. 伊達市の成り立ち

伊達市は少子高齢社会の到来、逼迫する地方財政といった今日の課題に立ち向かい、地方分権による自主自立のまちづくりの基礎固めを行うために、平成 18(2006)年 3 月に大滝区(旧大滝村)と合併をし、新伊達市として新たなスタートをしております。

また、このような時代にあって合併後最初の総合計画である第六次伊達市総合計画(平成 21(2009)年度～平成 30(2019)年度)では、厳しい現状を認識しながら夢を持って臨むことが大事なことと考え、貴重な財産である恵まれた自然環境と、先人が苦難の中、夢を持って開拓した精神、市民が互いに支えあう心を大切にしたいとの思いから、将来像を「自然を育み 未来に向かって挑戦する 人にやさしいまち」と定めて「まちづくり」を展開しています。

### 【伊達地域(旧伊達市)の成り立ち】

伊達地域の開拓は、明治 3(1870)年、仙台藩一門互理領主伊達邦成(だてくにしげ)とその家臣たちの自費による集団移住という他に類を見ない独特の形態で行われており、北海道においてはとりわけ古い歴史と伝統文化を有しています。

明治 33(1900)年の一級町村制施行による有珠郡東紋鼈村(ひがしもんべつむら)、西紋鼈村(にしもんべつむら)、長流村(おさるむら)、有珠村(うすむら)、稀府村(まれつぶむら)、黄金薬村(おこんしべむら)の合併による伊達村の誕生、大正 14(1924)年の町村制施行、昭和 47(1972)年の道内 33 番目となる市制施行を経ております。

北海道の中心である札幌市からは J R や高速道路の利用により約 100 分の距離に位置し、海と山と湖に囲まれた田園風景の広がる街は、豊かな自然環境と四季を通じて温暖なことから「北の湘南」と称されるなど、快適な居住地として知られています。

### 【大滝区(旧大滝村)の成り立ち】

大滝区の開拓は明治 28(1895)年に鹿児島県人の橋口文蔵が優徳および北湯沢に農場を拓いたのが開拓の始まりと伝えられ、一帯は壮瞥村の管轄として入植者を増やしていききました。

大正 4(1915)年には壮瞥村から分村し徳舜瞥村となり、昭和 25(1950)年には大滝村と改称、森林産業、農業、鉱業の隆盛とともに歩み続けてきましたが、昭和 30 年代後半以降は、零細経営農家の離農、徳舜瞥鉱山の閉山等により急激な過疎現象に見舞われました。

その後、「福祉村構想」や「観光施策の推進」などあらたな地域づくりを展開した結果、就業機会の拡大などにより定住人口もある程度回復し、急激な過疎化の進行からは脱却しましたが、若年層の流出、高齢者比率の増加など、現在も過疎化の問題は継続しています。



## 2. 位置と気象

本市は北海道の中央南西部、道都札幌市と函館市の間に位置します。伊達地域と大滝区は壮瞥町を挟み、東は登別市・白老町・千歳市、西は喜茂別町・留寿都村・洞爺湖町、南は室蘭市、北は札幌市と隣接しており、合併後の面積は 444.2k m<sup>2</sup> となっています。

噴火湾(内浦湾)に面する伊達地域は、日本海から津軽海峡を通過する対馬暖流の影響を受けるため、四季を通じて温暖であり、農作物も豊富で秋には柿が実るほどです。また初雪も 11 月と遅く、降雪量も少ないことから、積雪による交通障害は極めて稀です。

厳しい冬の期間が長い北海道において、本市はもっとも恵まれた気象条件を有していることから「北の湘南」といわれています。また、夏場は過ごしやすい気候であることから、夏の間だけ避暑のために伊達地域へ訪れる方が増えています。

一方、内陸に位置する大滝区は内陸性の気候となっており、例年、最深積雪が 100cm を上回り、北海道の冬の厳しさが感じられます。

### 伊達市の気候

	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均気温 (°C)	最大風速 (m/s)	平均風速 (m/s)	日照時間 (h/年)	最深積雪 (cm)	降水量 (mm/年)
伊達地域	30.2	-9.5	9.5	東南東 16.6	2.6	1,814.6	—	802.0
大滝区	30.0	-17.9	6.4	南西 9.9	1.7	1,542.8	145.0	1,394.0

〈気象庁札幌管区室蘭地方気象台 2015 データ〉

## 3. 人口・世帯数

伊達地域と大滝区の人口は、昭和 60(1985)年以降、ほぼ横ばいで推移しており、平成 17(2005)年の国勢調査では 14,989 世帯、37,066 人、世帯人員は 2.47 人であったのが、平成 18(2006)年の合併時点の住民基本台帳統計では、16,961 世帯、37,639 人、世帯人員 2.22 人となり、世帯数が増加する一方、世帯人員が減少する傾向を示していました。

この傾向は平成 22(2010)年の国勢調査でも同様となり 15,287 世帯、36,278 人、世帯人員は 2.37 人となりました。

人口動態では、周辺市町村からの流入に加え、恵まれた気候風土を反映して道内外各地から移住する人が多い一方、若年層の都市部への人口流出が続いています。

年齢構成をみると年少人口(0~15 歳)は、平成 7(1995)年では 14.9%、平成 12(2000)年では 12.9%、平成 17(2005)年では 12.5%、平成 22(2010)年では 11.8%と、出生率の低下により暫時低下してきています。また老年人口(65 歳以上)は、平成 7(1995)年では 19.2%、平成 12(2000)年では 23.5%、平成 17(2005)年では 27.0%、平成 22(2010)年では 30.4%と急速に増加してきており、全道平均の 24.7%、全国平均の 23.0%を上回っており、高齢化の動きが顕著となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所が発表している将来人口推計では、平成 32(2020)年に総人口は 33,626 人に減少し、老年人口の割合を 38.2%とする高い推計となっています。

## 5 歳階級別人口

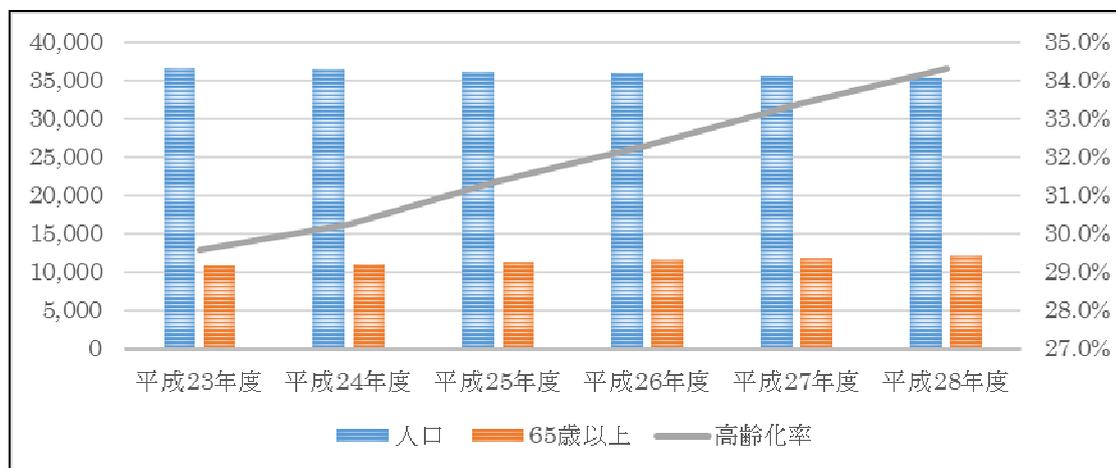
(単位：人、%)

年齢区分	平成 28 (2016) 年	平成 22 (2010) 年	増減	構成比	
	(H28.4.1 住民台帳)	(国勢調査)		平成 28 年	平成 22 年
0～4 歳	1,139	1,302	△163	3.22%	3.59%
5～9 歳	1,358	1,417	△59	3.84%	3.91%
10～14 歳	1,483	1,557	△74	4.20%	4.29%
15～19 歳	1,521	1,610	△89	4.30%	4.44%
20～24 歳	1,273	1,095	178	3.60%	3.02%
25～29 歳	1,239	1,391	△152	3.50%	3.84%
30～34 歳	1,536	1,920	△384	4.34%	5.29%
35～39 歳	1,958	2,483	△525	5.54%	6.84%
40～44 歳	2,562	2,114	448	7.25%	5.83%
45～49 歳	2,143	2,062	81	6.10%	5.68%
50～54 歳	2,042	2,203	△161	5.80%	6.07%
55～59 歳	2,192	2,808	△616	6.20%	7.74%
60～64 歳	2,759	3,273	△514	7.80%	9.02%
65 歳以上	12,125	11,040	1085	34.31%	30.43%
不詳	0	3	△3	0.0%	0.01%
総数	35,330	36,278	△948	100.0%	100.0%

〈平成 22 年国勢調査 平成 28 (2016) 年住民基本台帳人口〉

※増減は国勢調査を基準として計算した数値になります。

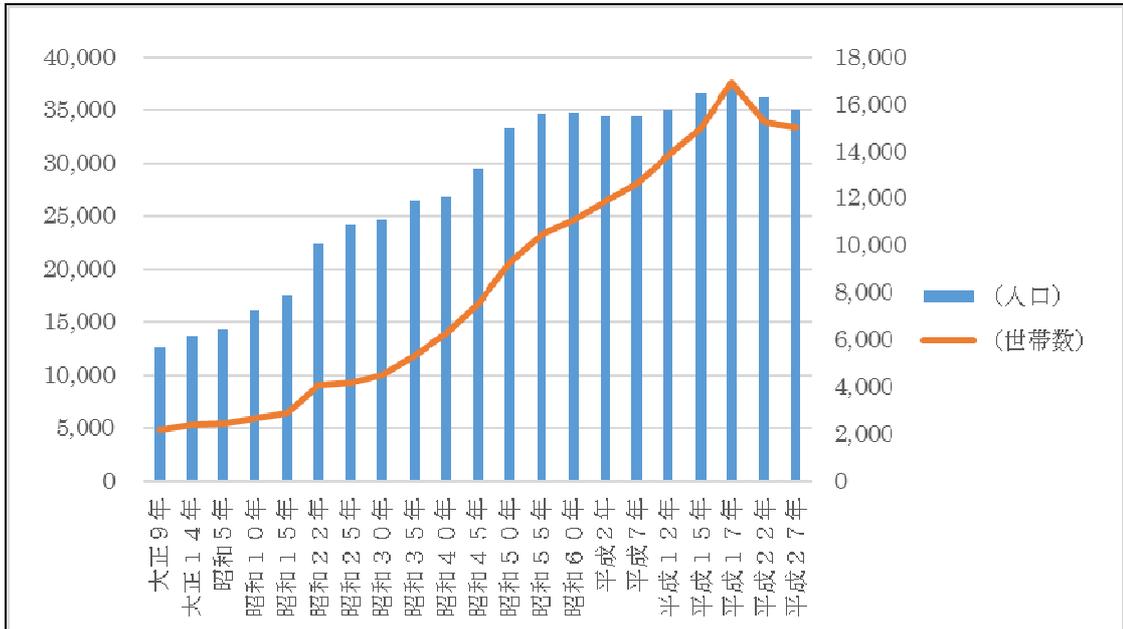
## 年度別住民基本台帳人口 (各年度 4 月 1 日現在)



〈住民基本台帳人口〉

世帯と人口の推移

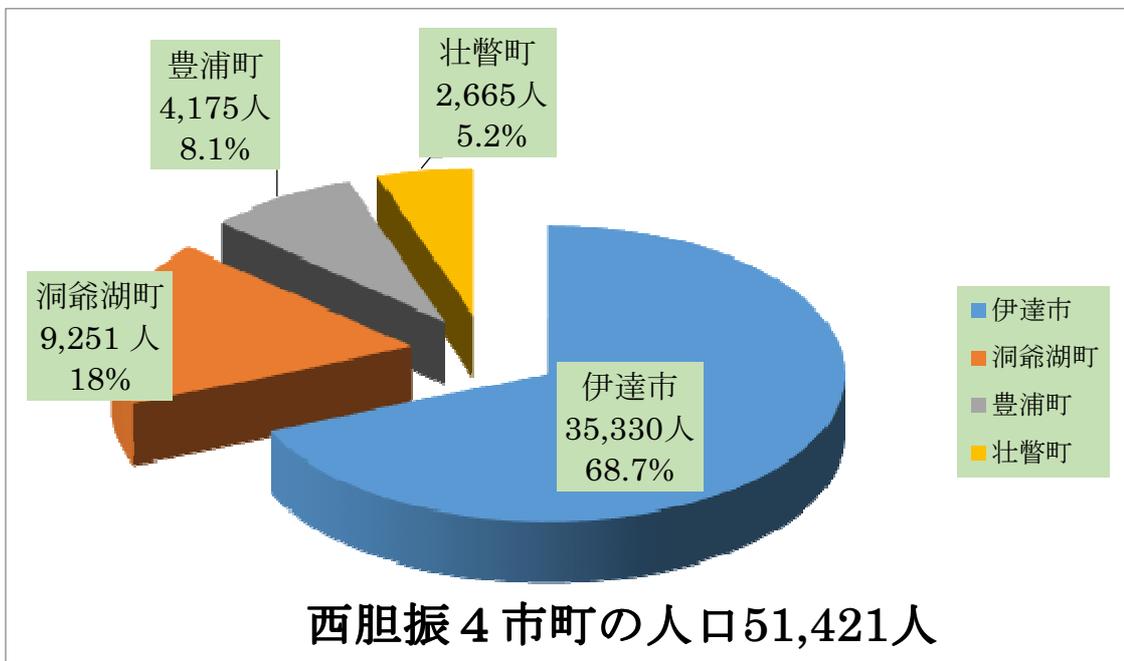
(単位: 左縦軸/人口 右縦軸/世帯数)



〈国勢調査〉

※平成17年、平成22年、平成27年の数値には旧大滝村を含む  
 ※平成27年は速報値の数値

西胆振4市町別人口(平成28(2016)年4月1日現在)



〈平成28(2016)年住民基本台帳人口〉

## 第2章 伊達市の産業

### 1. 就業構造

本市の産業別就業者数は、平成 22(2010)年の国勢調査で見ると、第 1 次産業が 1,651 人 (10.6%)、第 2 次産業が 2,963 人 (18.9%)、第 3 次産業が 11,014 人 (70.5%) となっており、全道と比較すると第 1 次産業の比率が高くなっています。

平成 17 年と比較し、産業別就業者の割合に大きな変動はありません。

#### 産業別就業者数

(単位:人(%))

区分		平成 12(2000)年	平成 17(2005)年	平成 22(2010)年
就業者数	伊達市計	16,952 (100.0)	16,589 (100.0)	15,628 (100.0)
	伊達地域	16,189 (100.0)	15,838 (100.0)	15,047 (100.0)
	大滝区	753 (100.0)	751 (100.0)	581 (100.0)
	全道	2,701,856 (100.0)	2,553,400 (100.0)	2,372,293 (100.0)
第 1 次産業	伊達市計	1,937 (11.4)	1,797 (10.8)	1,651 (10.6)
	伊達地域	1,822 (11.2)	1,687 (10.6)	1,540 (10.2)
	大滝区	115 (15.3)	110 (14.6)	111 (19.1)
	全道	217,908 (8.1)	200,822 (7.9)	181,531 (7.7)
第 2 次産業	伊達市計	3,641 (21.5)	3,038 (18.3)	2,963 (18.9)
	伊達地域	3,575 (22.1)	2,988 (18.9)	2,934 (19.5)
	大滝区	66 (8.7)	50 (6.7)	29 (5.0)
	全道	602,859 (22.3)	495,496 (19.4)	429,376 (18.1)
第 3 次産業	伊達市計	11,364 (67.1)	11,754 (70.9)	11,014 (70.5)
	伊達地域	10,792 (66.7)	11,163 (70.5)	10,573 (70.3)
	大滝区	572 (76.0)	591 (78.7)	441 (75.9)
	全道	1,881,089 (69.6)	1,857,082 (72.7)	1,761,386 (74.2)

〈国勢調査〉

### 2. 産 業

本市では市内で産出される豊かな食資源を産業間連携に活かし、地域全体の振興に結び付けるための「伊達ウェルシーフード構想」に基づき、農業・酪農畜産業、水産業に携わる生産者、「食」に関わる加工業者・小売業者・飲食業者と一体となり、地域ブランドの確立や地産地消の推進など「食」に関わる取り組みの検証を行いながら「食を通じたまちおこし」を推進しています。



## (1) 農林業

### 【農業】

■ 本市の農業は、明治初期の開拓以来、先進諸国の知識、技術の先駆的導入によって寒地農業の確立を図り、模範農業として本道初期開拓の進展に大きく貢献しました。こうした開拓 140 年余の歴史を背景に、恵まれた気象条件、土壌条件、地理的条件を生かして都市近郊型農業を確立し、野菜を中心に畑作、水稻、酪農、花きなど多角的な複合経営を展開しています。

■ 伊達地域においては温暖な気候のもと約 70 種類の野菜が生産されています。産地指定を受け生産量が全道 2 位となっているキャベツや全道 5 位のブロッコリーなど、道内有数の生産量を誇る野菜を札幌などの主要市場へ出荷しています(平成 25 年度北海道農林統計協会)。平成 23 (2011) 年度には、東日本大震災で被災した姉妹都市宮城県亘理町のいちご生産者を受け入れ、その高い生産技術を地域農業者へ伝承し、当市を代表する農産物として地域ブランド化・高付加価値化を図れるよう試験栽培を実施しています。

また、当市の温暖な気候を生かした冬期ハウス栽培による「冬野菜」の産地化を図るべく、冬野菜産地化事業を実施し、J A伊達市と連携しハウスリース事業に取り組んでいます。

さらに、高糖度トマトや越冬たまねぎなど農業者が主体となった生産技術向上及び産地化に向けた取り組みを行うことで、他産地との差別化や優位性を確立し販売戦略の構築を図るほか、農産物生産の基礎となる土づくりにおいても、伊達市堆肥センターが製造する 4 種類の堆肥を販売し土壌改良を促進するとともに、関係機関と連携した土壌分析及び施肥設計を行う取り組みを実施しています。

現在当地域においては国営緊急農地再編整備事業の実施検討地区として位置付けられており、当該事業を契機とした農産物生産の効率化や農地の集積化、コントラクター及び農業経営体の法人化推進なども視野に入れ、事業実施に向けた取り組みを行っています。

■ 大滝区においては山岳丘陵地の畜産と狭小な平坦地における根菜類等の寒冷地作物の栽培が中心となっています。全般的に山岳の丘陵地帯であるため大規模機械化農業を推進するには制約が大きいことから、販売農家一戸あたりの耕地面積は全道平均 21.5ha の 50%程度と狭く、安定した農業経営を図るためには付加価値の高い作物の選定や地力向上のための生産基盤整備を進める必要があります、平成 24 (2012) 年度においては長芋選果機の更新を行い円滑な出荷体制の整備を行っているところです。

一方、農業を支える担い手の減少と高齢化が進んでいることから、重量作物から軽量作物への転換のひとつとして、アロニア(小果実)の栽培に取り組んでおり、J Aにおいて選果出荷がされています。

## 農業の推移

区分	農家数			耕地面積	田	畑	粗生産額	
	専業	兼業	自給的農家					
平成 17(2005)年	608 戸	280 戸	238 戸	90 戸	3,919ha	431ha	3,476ha	9,270 百万円
平成 22(2010)年	537 戸	235 戸	211 戸	91 戸	4,125ha	348ha	3,758ha	—
平成 27(2015)年	475 戸	250 戸	152 戸	73 戸	3,804ha	342ha	3,462ha	—

〈世界農林業センサス、農林水産統計年報〉

## 主な種類別作付面積

作付面積 (ha)	水稻	小麦	馬鈴薯	小豆	てんさい	キャベツ
平成 17(2005)年	234ha	429ha	112ha	125ha	311ha	190ha
平成 22(2010)年	231ha	364ha	94ha	127ha	—	—
平成 27(2015)年	210ha	210ha	83ha	145ha	321ha	142ha

〈世界農林業センサス 含む旧大滝村〉

## 家畜飼養規模数と頭数

\*()の数字は実戸・頭数に含む大滝区の数を示す。

(単位：頭数)

区分	10 頭以下	11~20 頭	21~30 頭	31~40 頭	41~50 頭	51 ~ 100 頭	101~300頭	300 頭以上	合計
乳牛	0 戸 0	1 法人 17	1 戸 30	3 戸 (2) 99(64)	2 戸 (0) 93(0)	14 戸 (3) 986(193)	6 戸 1 法人 898	—	26 戸 2 法人 (5) 2,123(257)
肉牛	9 戸 1 法人 (1) 69(10)	7 戸 (2) 97(32)	1 戸 26	4 戸 (1) 135(31)	2 戸 50	7 戸 442	3 戸 426	—	33 戸 1 法人 (4) 1,245(73)
豚	—	—	—	—	—	—	—	3 法人 (1) 6,444(1,500)	3 法人 (1) 6,444(1,500)
馬	9 戸 2 法人 (1) 25(2)	1 法人 14	—	1 法人 36	—	—	—	—	9 戸 4 法人 (1) 75(2)

区分		1 万羽以下	1 万羽~10 万羽	10 万羽以上	合計
鶏	採卵鶏	5 戸 1 法人 (3) 1,161(32)	3 法人 276,640	—	5 戸 4 法人 (3) 277,801(32)
	ブロイター	—	—	1 法人 1,149,327	1 法人 1,149,327

〈平成 28 (2016)年 2 月 1 日現在 農務課家畜飼養状況調査〉

## 【林業】

- 伊達市森林整備計画内の森林は約 13,654ha あり、そのうち 4,058ha が人工林、8,475ha が天然林、1,121ha が天然性萌芽林となっています。樹種として人工林ではカラマツ、トドマツ、アカエゾマツ、シラカンバ等が多く育っており、天然林はハンノキ、ミズナラ、シラカンバ、ケヤキなどの広葉樹が多い森林となっています。
- 近年、就業者の減少・高齢化などにより林業・木材経営は厳しい環境におかれていることから、間伐で不要となった木材（カラマツ）を原料とし、地球にやさしい環境づくりを目的とした木質ペレットの生産を行い、雇用創出、販路拡大のための取り組みを推進しています。平成 28(2016)年 3 月末時点では、ペレットボイラーが約 70 台、ペレットストーブが個人住宅や公共施設等に約 100 台設置されており、伊達市以外でもその利用がなされています。

### ペレット生産・出荷量

(単位：t)

区分	生産量	出荷量	出荷先		
			公共施設	一般(事業所含)	農業用
平成 22(2010)年度	701	613	210	186	217
平成 23(2011)年度	845	750	307	240	203
平成 24(2012)年度	1,402	1,242	299	757	186
平成 25(2013)年度	1,234	1,304	356	797	151
平成 26(2014)年度	1,503	1,522	271	1,135	116
平成 27(2015)年度	1,429	1,323	278	951	94

〈水産林務課〉



## (2) 水産業

- 本市の水産業は、噴火湾養殖漁業の要所にあり、ホタテ貝などの貝類を主体とした養殖漁業で発展してきました。また、サケの増殖事業ではふ化放流技術向上のため、黄金・関内地区に伊達さけ・ますふ化場を設置し、サケの安定的な回帰を図っています。
- 育てる漁業を推進するため、北海道栽培漁業伊達センターが完成し、平成 18(2006)年度より、えりも町から函館市にかけての海域で 100 万尾のマツカワ※の種苗が放流されています。(※マツカワはホシカレイ、ヒラメと並ぶ高級魚でカレイ類の中で最高に美味と絶賛する人もいるほどです。その白身は主に刺身や寿司だねに使われます。)
- 本市には、いぶり噴火湾漁業協同組合の伊達支所、有珠支所があり、伊達市街沿岸の伊達漁港・黄金漁港及び恵まれた入江となっている有珠湾をそれぞれ核として前浜漁業が営まれています。

### 水産業の推移

区分	漁家数(戸)	従業員数(人)	動力漁船数(隻)	漁獲高数(t)	水揚げ高(百万円)
平成 21(2009)年	97	202	244	6,937	1,184
平成 22(2010)年	105	198	245	4,318	874
平成 23(2011)年	94	194	235	4,660	1,048
平成 24(2012)年	92	188	217	5,266	1,047
平成 25(2013)年	96	184	208	4,971	1,131
平成 26(2014)年	89	168	202	6,030	1,613

〈水産林務課〉

### 平成 26(2014)年内訳(漁獲高・水揚げ高)

区分	ホタテ	サケ	その他	合計
漁獲高数 t	5,059	711	260	6,030
水揚げ高 百万円	1,193	299	121	1,613

〈水産林務課〉



### (3) 商 業

- 本市の商業は、胆振西部を商圈とし、購買力吸引型広域商業ゾーンとして発展してきており、網代町、市役所通りを中心として鹿島町・大町・錦町、駅前に商店街が形成されています。しかし、近年は郊外への大型店進出等により古くからの商店街には空き店舗が目立っています。
- 国道沿いにはロードサイドショップとして自動車販売店、ガソリンスタンドや大型のスーパーマーケットなどが立地していますが、近年はコンビニエンスストアや各種専門店の立地により、新たな商店街を形成しています。
- 中心市街地は、古くから商店や住宅が集積しており、いろいろな機能を培ってきた「街の顔」です。この「街の顔」の活性化のため、本市・TMO(まちづくり機関)である商工会議所・商店街・地域住民が協働で元気あふれるまちづくりを進めています。

## 商業の推移

区分	商店数(店)	従業員数(人)	商品販売額(千円)	1店当たり販売額(千円)
平成 3(1991)年	492	2,635	61,636,000	125,276
平成 6(1994)年	447	2,926	67,442,000	150,877
平成 9(1997)年	427	2,709	71,503,000	167,454
平成 11(1999)年	439	3,071	69,375,000	158,030
平成 14(2002)年	429	3,018	61,220,000	142,704
平成 16(2004)年	405	2,781	60,527,000	149,449
平成 19(2007)年	398	2,738	50,711,470	127,416
平成 24(2012)年	297	2,068	41,737,000	140,529
平成 26(2014)年	296	2,102	41,982,580	141,833

〈商業統計調査、経済センサス-活動調査〉

※ 「平成 21(2009)年商業統計調査」は、経済センサスの創設に伴い中止。

※ 平成 24(2012)年のみ「経済センサス-活動調査」の数値。

## (4) 工業



- 本市では古くは明治初期から農村工業が盛んで、道央地区新産業都市の指定に伴って工業が活発化し、現在では地域で生産される農産物を加工する食料品工業を中心に発達してきているほか、コンクリート製品製造などが産業の重要な一翼を担っています。
- 2つの工業団地を有し、北海道縦貫自動車道伊達インターチェンジに隣接する松ヶ枝地区中小企業団地(分譲済み)及び現在分譲中の伊達長和工業団地(工業専用地域)があります。伊達長和工業団地付近には、北海道電力(株)伊達発電所があり、すでに数社の企業が立地操業しており、今後も引き続き企業誘致を進めていきます。また、有珠山噴火の際の避難道路として道道南黄金長和線(長和～館山下間)が平成 18(2006)年に整備されたことにより、国道からのアクセスの利便性が増し、企業立地が期待されています。

## 工業の推移

区分	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	工業出荷額等 (百万円)
平成 13(2001)年	37	925	13,730
平成 14(2002)年	36	887	14,180
平成 15(2003)年	41	929	14,750
平成 16(2004)年	33	856	16,419
平成 17(2005)年	32	825	17,101
平成 18(2006)年	30	580	14,541
平成 19(2007)年	34	653	15,807
平成 20(2008)年	33	658	16,786
平成 21(2009)年	33	665	16,732
平成 22(2010)年	32	643	16,419
平成 24(2012)年	31	627	14,443
平成 25(2013)年	32	630	15,298
平成 26(2014)年	30	613	15,333

〈工業統計調査、商工観光課〉

※数値は従業者 4 名以上の事業所

※「平成 23 (2011) 年工業統計調査」は経済センサスの創設に伴い休止。

## (5) 観 光



■ 本市は、武士の集団移住により開拓され、北海道内でも固有の歴史を持つまちです。縄文遺跡も数多く出土され史跡に指定されている北黄金貝塚や有珠善光寺、伊達市開拓記念館など歴史探勝地として注目されています。

■ 武士による開拓の歴史と伝統を象徴する勇壮な騎馬武者による「伊達武者まつり」をはじめとして、地域特産の物産・味覚まつりである「有珠磯まつり」、「だて農業・漁業・大物産まつり」などのイベントが開催されています。

また北海道の早春を飾るスポーツイベントとして、近年 4,000 人を超えるランナーが市内を駆け抜ける春の合宿村まつり「春一番伊達ハーフマラソン大会」は、今年で 29 回目となり、道内屈指のマラソン大会に位置づけられてきました。

- 登別、洞爺の二大温泉地の間に位置していることから、いわゆる通過型観光地として発展してきておりますが、近年は「宮尾登美子文学記念館」や「北黄金貝塚公園」、刀鍛冶の見学や藍染めを体験できる「黎明観」など文化・体験型観光を推進しています。また、平成 24(2012)年 4 月に移転オープンした「伊達市観光物産館」では、本市の観光情報の発信並びに農産物を中心とした地場製品の展示及び販売を行い、観光及び産業の活性化を図っていきます。
- 洞爺カルデラや有珠山などに代表される地質遺産や雄大な自然遺産、さらに縄文遺跡などの歴史遺産からなる「洞爺湖有珠山ジオパーク」が、平成 21(2009)年 8 月に世界ジオパークに登録されました。博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行っています。

### 【大滝区】

- 支笏洞爺国立公園の中心部に位置する大滝区は、道央圏と道南圏の観光エリアを結びつける好地域性を有しており、湯量豊富な「北湯沢温泉郷」を中核に、「ホロホロ山自然休養林」、「景勝三階滝公園」などを擁し、札幌市、千歳市、室蘭市などの道内主要都市と胆振、石狩、後志各支庁にまたがる観光圏域となっています。  
また、1,000 人以上が宿泊可能な大型ホテルが 1 施設あり、収容人数も 2,000 人を超え、観光客の受け入れ体制も整っています。
- 大滝区の変化に富んだ丘陵や森は絶好のクロスカンントリーコースになることから、国内外から愛好者が 600 人以上参加する「おおたき国際スキーマラソン」や、フィンランド生まれでポール（ストック）を使って丘陵地や山、平坦なコースを歩く「おおたき国際ノルディックウォーキング」などが開催されています。

平成 27(2015)年度 期別観光客入込数

(単位：千人)

区分		H25 計	H26 計	H27 計	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
伊達市計	入込総数	1,471.4	1,782.9	1,816.5	499.6	565.3	435.8	315.8
	道外客	84.1	88.2	70.5	14.3	27.8	14.9	13.5
	道内客	1,633.3	1,694.7	1,746	485.3	537.5	420.9	302.3
	日帰客	1,505.3	1,433.4	1,576.1	458.3	491.6	371.1	255.1
	宿泊客	212.1	349.5	240.4	41.3	73.7	64.7	60.7
うち大滝区	入込総数	899.3	809.3	726	136.3	137.5	230.3	221.9
	道外客	57.9	56.1	34.6	7	4.7	11.1	11.8
	道内客	841.4	753.2	691.4	129.3	132.8	219.2	210.1
	日帰客	709.3	581.6	519.3	103.6	75.5	172.4	167.8
	宿泊客	190.0	227.7	206.7	32.7	62	57.9	54.1

〈商工観光課〉

有珠海水浴場利用状況

区 分	平成 24(2012)年度	平成 25(2013)年度	平成 26(2014)年度	平成 27(2015)年度
開設期間	7/3～8/21	7/7～8/25	7/6～8/24	7/6～8/23
開設日数 (日)	50	50	50	50
入り込み数 (人)	8,463	16,466	7,309	6,013
中央海水浴場 (人)	7,332	15,382	6,350	5,603
キャンプ場 (人)	156	264	179	133
海浜利用者 (人)	975	820	780	277

〈商工観光課〉

主要イベント入込数

(単位：人)

主要イベント名称	平成 24(2012)年度	平成 25(2013)年度	平成 26(2014)年度	平成 27(2015)年度
春の合宿村まつり				
春一番伊達ハーフマラソン大会 (参加者数) (4 月)	4,128	4,176	4,232	4,170
有珠磯まつり (7 月)	29,000	29,700	37,000	35,000
伊達武者まつり (8 月)	39,000	39,000	41,000	41,000
だて農業・漁業・大物産まつり (10 月)	24,000	26,000	26,000	24,000
※H25 年度はだて農業・漁業・物産まつりの入込数				

〈商工観光課〉

### 主要観光施設入込数

(単位：人)

主要観光施設名称	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度
北黄金貝塚公園	13,454	13,213	13,510	12,888
開拓記念館	6,526	6,605	5,677	6,030
宮尾登美子文学記念館	5,294	4,386	3,981	5,302
黎明観	48,217	38,152	13,165	35,444
有珠海水浴場	7,332	15,382	6,350	5,603
有珠善光寺自然公園	10,227	11,308	11,449	14,171
伊達市観光物産館	749,664	989,368	1,258,772	1,380,525

〈商工観光課〉

## 第3章 その他

### 1. 道路の現況

区分	実延長	改良済		舗装率	
		延長	改良率	延長	舗装率
国 道	56.3km	56.3km	100.0%	56.3km	100.0%
道 道	43.9km	40.1km	91.3%	39.6km	90.2%
市 道	556.5km	337.0km	60.6%	308.9km	55.7%

〈平成 28(2016)年 4 月 1 日現在 建設課〉

※国道－3路線、道道－11路線  
 ※市道には独立専用自転車歩行者道は含まない。  
 ※市道の延長は道路現況〈総括〉台帳より抜粋

### 2. 上下水道の普及率

	普及率
上水道(伊達地域)	88.4%
簡易水道(大滝区)	82.6%
下水道	87.0%

〈平成 28(2016)年 4 月 1 日現在 水道課、地域振興課、下水道課〉

### 3. 姉妹都市等の提携状況

	自治体名	締結年月
姉妹都市	宮城県亘理町	昭和 56(1981)年 4 月
	福島県新地町	昭和 57(1982)年 7 月
	宮城県山元町	昭和 63(1988)年 4 月
	カナダ国ブリティッシュ・コロンビア州 レイク・カウチン町	平成元(1989)年 10 月
歴史友好都市	宮城県柴田町	昭和 63(1988)年 5 月
経済交流都市	大阪府枚方市	平成 11(1999)年 7 月
友好都市	中華人民共和国 福建省 漳州市	平成 22(2010)年 4 月

## 中華人民共和国 福建省漳州市について

■ 伊達市は平成 22(2010)年 4 月 7 日中華人民共和国福建省漳州市との友好都市締結議定書に調印しました。平成 17(2005)年 6 月、日本と中国の友好を深めることを目的に、市民有志が「伊達日本中国友好協会」を設立し取り組んだ交流活動をきっかけとして、以降毎年、中国訪問団による漳州市訪問または漳州市が来市をするなどの市民レベルでの交流を行ってきました。

漳州市は中国沿海地方の台湾の対岸に位置し、中国では中都市の部類に属する都市で温暖な気候の中で果物栽培や農産物、花の生産が盛んです。

また、港を 2 つ持ち、水産品生産や加工業も発達しており、雇用状況や食料事情が安定していることから貧富の差も少なく、消費活動も盛んで中国の中でも経済的に豊かな都市と言われています。

さらに、漳州市は華僑の主な出身地となっており、100 万人以上にのぼる海外華僑や華人が多く地域や国で活動しています。

### DATA 中華人民共和国 福建省 漳州市

□人口	約 497 万人（うち市区人口は 34 万人）
□面積	約 12,600 k m <sup>2</sup>
□気候	年平均気温 約 21℃ 年間雨量 約 1,580 mm
□特産物	果物/ミカン・バナナ・スターフルーツ・マンゴー 海鮮/エビ・アワビ・ホタテ・カキ・イカ 植物/水仙・椿・蘭
□日本での友好都市	長崎県諫早市
□経済発展の状況	昭和 60(1985)年に対外解放地区として認可、現在国家級・省級の開発区が 15 に達し、世界 170 カ国や地域との経済貿易を展開

## 4. 市内指定文化財一覧

指定区分	指定種類	名称	所在地	所有者	指定年月日
国	重文	旧三戸部家住宅	梅本町 61-2	伊達市	S46(1971).12.28
国	史跡	善光寺跡	有珠町 124	善光寺	S49(1974).5.23
国	史跡	北黄金貝塚	北黄金町 75-1	伊達市	S62(1987).12.25
国	重文	北海道有珠モシリ遺跡出土品	梅本町 61-2	国・伊達市	H16(2004).6.8
国	重文	蝦夷三官寺善光寺関係資料	有珠町 124	善光寺	H17(2005).6.9
道	有文	釈迦如来立像	有珠町 124	善光寺	S34(1959).2.24
道	有文	円空作聖観音像	有珠町 124	善光寺	S52(1977).3.11
市	有文	土蔵倉	鹿島町 6	浅見圭一	S62(1987).3.27
市	有文	迎賓館	梅本町 61-2	伊達市	H4(1992).9.28
市	有文	旧伊達家蔵	梅本町 61-2	伊達市	H4(1992).9.28
市	有文	バチラー夫妻記念教会堂	向有珠町 119	日本聖公会北海道教区	H4(1992).9.28
市	有文	旧もんべつ製糖所製糖機械	館山下町 1	北海道糖業倶楽道南製糖所	H16(2004).4.23
市	有文	亘理伊達家指小旗	鹿島町 20-1	伊達市	H24(2012).9.28
市	無民文	仙台神楽	東関内町 78	伊達市仙台神楽保存会	S46(1971).8.27
市	無民文	柳心介胄流	末永町 7	柳心介胄流保存会	S59(1984).3.10
市	無民文	さんさ時雨	弄月町 211	伊達市さんさ時雨保存会	H20(2008).6.27
市	史跡	伊達市開拓記念館庭園	梅本町 61-2	伊達市	S48(1973).12.27
市	史跡	鋤入れの碑	梅本町 37	伊達市	S48(1973).12.27
市	史跡	館山チャシ	館山町 7	伊達市	S48(1973).12.27
市	史跡	バツタ塚	松ヶ枝町 217	伊達市	S48(1973).12.27
市	史跡	有珠会所跡	有珠町 86	伊達市	S48(1973).12.27
市	史跡	創治記念碑	梅本町 44	伊達市	S56(1981).3.11
市	史跡	ポンチャシ	向有珠町 163-2	伊達市	S62(1987).3.27
市	史跡	茶飲み場遺跡	北黄金町 75-103	伊達市	H9(1997).4.25
市	史跡	北黄金 3 遺跡	北黄金町 75 内	伊達市他	H9(1997).4.25
市	史跡	有珠 6 遺跡	有珠町 274-1 内	渡邊源之	H19(2007).6.22

〈生涯学習課〉

※重文－重要文化財 有文－有形文化財 無民文－無形民俗文化財  
 ※記念物は除く。

## 5. 市内の主な公共施設一覧

名称	所在地	電話番号
<b>【市の施設等】</b>		
市民活動センター	鹿島町 20-1	25-6503
カルチャーセンター「あけぼの」	松ヶ枝町 34-1	22-1515
伊達市噴火湾文化研究所	館山町 21-5	21-5050
伊達市アートビレッジ文化館	館山町 21-5	21-5050
図書館	梅本町 67-5	25-3336
開拓記念館	梅本町 61-2	23-2061
北黄金貝塚情報センター	北黄金町 75	24-2122
伊達市観光物産館	松ヶ枝町 34-1	25-5567
黎明観	梅本町 57-1	25-6161
宮尾登美子文学記念館	梅本町 57-1	21-7700
大滝基幹集落センター	大滝区本郷町 84-1	68-9333
<b>【体育・スポーツ施設等】</b>		
伊達市総合体育館「あかつき」	松ヶ枝町 34-1	23-8600
伊達市総合体育館温水プール・トレーニング室	松ヶ枝町 34-1	25-8300
伊達市武道館	末永町 39-8	23-8600
伊達市館山野球場	館山町 29-1	23-8600
まなびの里パークゴルフ場	南有珠町 141-2	38-2151
まなびの里サッカー場	東有珠町 76-1	23-3331
伊達市関内パークゴルフ場	東関内町 17	23-8600
大滝自然ふれあい交流施設(パークゴルフ場)	大滝区本町 43-1	68-6282
優徳農村公園(パークゴルフ場)	大滝区優徳町 113-1	68-5566
大滝歩くスキーコース	大滝区大成町 1	68-9333
<b>【集会・研修施設】</b>		
東地区コミュニティセンター(みらい館)	弄月町 241-4	22-2888
有珠地区コミュニティセンター(白鳥館)	有珠町 41-2	38-3270
黄金地区コミュニティセンター(はまなす館)	北黄金町 65	24-2111
長和地区コミュニティセンター(ふれあい館)	長和町 477-16	22-8700
優徳コミュニティセンター(ふるさと館)	大滝区優徳町 87-2	68-6111

## 6. 伊達市のあゆみ

明治 2(1869)年 8 月	伊達邦成、明治政府より有珠郡支配を命ぜられる
3(1870)年 4 月	第 1 回移住(255 人)
33(1900)年 7 月	1 級市町村制施行により伊達村と改称
大正 2(1913)年 1 月	市街地に電話開通
14(1925)年 8 月	町制施行(伊達町)
昭和 39(1964)年 4 月	新産業都市に指定
39(1964)年 7 月	伊達市体育館開設
42(1967)年 10 月	都市計画用途地域指定
44(1969)年 1 月	伊達・壮瞥学校給食組合給食開始
44(1969)年 8 月	開基 100 年
45(1970)年 12 月	市街地区域、市街地調整区域決定
47(1972)年 4 月	市政施行(伊達市)
48(1973)年 8 月	第 1 回伊達武者まつり
51(1976)年 4 月	新庁舎完成
52(1977)年 8 月	有珠山噴火(7 日午前 9 時 12 分)災害救助法適用
53(1978)年 4 月	市の木「エゾヤマザクラ」市の花「ツツジ」制定
56(1981)年 4 月	伊達市亙理町ふるさと姉妹都市締結調印式
57(1982)年 7 月	伊達市新地町ふるさと姉妹都市締結調印式
60(1985)年 10 月	公共下水道供用開始
61(1986)年 10 月	国鉄胆振線廃止
63(1988)年 4 月	伊達市山元町ふるさと姉妹都市締結調印式
63(1988)年 5 月	伊達市柴田町歴史友好都市締結調印式
平成元(1989)年 7 月	ゴミ処理手数料有料化開始
元(1989)年 10 月	大滝村(当時)カナダ、ブリティッシュコロンビア州、レイク・カチン町姉妹都市締結調印式
3(1991)年 4 月	保健センター、武道館オープン
4(1992)年 10 月	北海道縦貫自動車道伊達～室蘭間開通
5(1993)年 4 月	道道伊達洞爺線の国道昇格(国道 453 号)
6(1994)年 3 月	北海道縦貫自動車道伊達～虻田洞爺湖間開通

平成 6(1994)年 7 月	伊達街道一工区、市役所通り商店街近代化事業完成
6(1994)年 10 月	伊達市史発刊
6(1994)年 12 月	だて歴史の杜カルチャーセンターが落成
8(1996)年 3 月	道道上長和萩原線(西関内～上長和間)開通
8(1996)年 4 月	道の駅「フォーレスト 276 大滝」登録
8(1996)年 8 月	住民参加モデル事業「まれふふれあい公園」完成
9(1997)年 4 月	東地区コミュニティセンターオープン
10(1998)年 3 月	伊達街道二工区、網代町商店街近代化事業完成
10(1998)年 8 月	伊達西小学校新校舎完成
11(1999)年 4 月	有珠地区コミュニティセンターオープン、黎明観オープン
11(1999)年 7 月	大滝村(当時)大阪府枚方市経済交流都市締結調印式
12(2000)年 3 月	有珠山噴火(31 日午後 1 時 7 分)、災害救助法適用 (29 日)
12(2000)年 8 月	道の駅「だて歴史の杜」開園
13(2001)年 6 月	国指定史跡「北黄金貝塚公園」開園
13(2001)年 10 月	伊達市子育て支援センター「えがお」オープン
14(2002)年 10 月	ふれあい福祉センターオープン
15(2003)年 10 月	伊達市・壮瞥町・大滝村合併協議会設置
15(2003)年 10 月	第 57 回日本人類学会、民俗学会開催
15(2003)年 11 月	伊達市消防・防災センターオープン
16(2004)年 4 月	黄金地区コミュニティセンターオープン
16(2004)年 4 月	伊達市堆肥センター本格稼働開始
16(2004)年 6 月	伊達ウェルシーランド構想の実践組織「豊かなまち創出会議」設立
16(2004)年 12 月	合併協議から壮瞥町が離脱 伊達市・大滝村合併協議会設置
17(2005)年 2 月	大滝村との合併協定書に調印
17(2005)年 3 月	北海道知事へ廃置分合(合併)申請書を提出
17(2005)年 4 月	噴火湾文化研究所設置 宮尾登美子文学記念館オープン
17(2005)年 11 月	北海道栽培漁業伊達センター完成
18(2006)年 3 月	大滝村と合併、新「伊達市」誕生(平成 18 年 2 月 大滝村閉村)
	道道南黄金長和線(長和～館山下間)開通

平成 18 (2006) 年 4 月	星の丘小中学校開校
19 (2007) 年 4 月	長和地区コミュニティセンターオープン
20 (2008) 年 4 月	優良田園住宅「田園せきない」造成地完成
20 (2008) 年 7 月	北海道洞爺湖サミット開催 カナダ、S. ハーパー首相が「子ども環境サミット」出席のため来伊
20 (2008) 年 12 月	来伊した S. ハーパー首相の名を冠した「ハーパーホール」記念プレート贈呈式開催
21 (2009) 年 5 月	道の駅だて歴史の杜黎明観前交流広場にて、伊達軽トラ日曜朝市を開催
22 (2010) 年 3 月	有珠中学校・長和中学校が閉校し、光陵中学校へ統合
22 (2010) 年 4 月	中華人民共和国福建省漳州市友好都市締結調印式
22 (2010) 年 10 月	地域活性化シンポジウム開催
23 (2011) 年 6 月	北海道電力(株)伊達発電所構内に伊達ソーラー発電所が完成し、営業運転開始
23 (2011) 年 11 月	南黄金町に風力発電施設「伊達ウインドファーム」が完成し、営業運転開始
24 (2012) 年 1 月	伊達市が「次世代エネルギーパーク」に認定
24 (2012) 年 4 月	総合公園「だて歴史の杜」内に伊達市総合体育館、伊達市観光物産館がオープン
24 (2012) 年 6 月	南有珠町に「まなびの里パークゴルフ場」がオープン
25 (2013) 年 3 月	東有珠町に「まなびの里サッカー場」がオープン
26 (2014) 年 4 月	総合公園「だて歴史の杜」内に伊達市温水プール・トレーニング室」がオープン
27 (2015) 年 4 月	館山町に「伊達市アートビレッジ文化館」がオープン
27 (2015) 年 4 月	「伊達市観光物産館」内に1市3町のコミュニティFM放送局『wi-radio (ワイラジオ)』が開局
28 (2016) 年 4 月	旧市体育館跡地に「市民活動センター」がオープン

## 伊達市の新施設の概要

### 市民活動センター

平成 28 年 4 月、旧市体育館跡地に「市民活動センター」がオープンしました。

市民活動センターは市民の方に活動の場を提供し、地域の振興を図るための施設で、講座や研修会に適した「交流室(80㎡2室)」や、イベント、レクリエーションなどに利用できる「多目的室(約 200㎡)」、ホール内には市民が自由に利用できる憩いスペースの他、活動団体の展示スペース、グループで歓談できるテーブル席を備えているなど、多目的に利用でき、かつ気軽に来館できる施設となっております。

【市民活動センター 外観】



【多目的室】



## 第4章 まちづくりの基本構想

本市は平成18(2006)年3月に大滝村との合併により新伊達市として新たなスタートをきり、平成21(2009)年度～平成30(2018)年度を計画期間とする「第六次伊達市総合計画」を策定しました。本計画では、自治体経営の視点に立ち「選択と集中」によって戦略的なまちづくりを推進するため「食」、「教育」、「生きがい」、「環境」の4つのキーワードからなる重要政策を掲げ、これら政策を集中的、横断的に取り組むことで、限られた地域資源、人的資源や財源を有効に活用し、活力ある地域社会の実現をめざしています。

### 1. 将来像

まちづくりの目標は、まちに活力があふれ、住む人誰もが幸せな人生を過ごせる地域社会を実現することです。そのために、この地に生活する私たちは、これからの10年後を見据えてどのようなまちづくりをすべきでしょうか。

地域経済と地方財政が低迷を続け規模の縮小傾向を示す中で日常生活もめまぐるしく変化し、時代の先行き不透明感が増している今日の社会情勢を見極め、将来を見通すことは、一層困難な状況を迎えています。

そこで、第六次伊達市総合計画の将来像を定めるために、私たちのまち伊達市の誕生に振り返って考えてみることにしました。まちづくりのれい明期を支えた原動力、即ちこのまちの地勢と先人が培ったまちづくりの知恵には、伊達市の進むべき道しるべのヒントがあります。

噴火湾に面した伊達地域は、「北の湘南」と称される温暖な気候と肥沃な大地を形成し、また豊かな森林に包まれた大滝地区は、みどりと温泉に恵まれて「癒しの里」と称されています。

明治3年にこの地に移住した先人は、苦難に満ちた開拓に夢を持って立ち向かい、子弟の教育に情熱を注ぎ、常に未来に向かって果敢な挑戦を繰り返してきました。

このことを改めて見つめ直し、伊達市の将来像を次のように定めます。

#### <将来像>

### 自然を育み 未来に向かって挑戦する 人にやさしいまち

#### \* 将来像に託す決意

##### 1. 「自然を育み」

伊達の恵まれた自然環境はかけがえのない貴重な財産であり、伊達市発展の礎です。この恵まれた自然環境を守り育みながら戦略的に活かしたまちづくりをめざします。

##### 2. 「未来に向かって挑戦する」

伊達開拓の先人たちは、酷寒原始の風土とたたかいながら、今日の発展の基礎を築きました。この進取開拓と一致協力の精神を受け継いで、市民の英知とエネルギーを結集し、市民主体のまちづくりを進めます。

##### 3. 「人にやさしいまち」

まちの将来を築くのは市民一人ひとりであり、互いの支えあいがあるまちづくりの原点です。やさしい心がかよひあう愛のあるまちをめざします。

## 2. 政策の大綱

### \* 重点政策と分野別政策

将来像の実現に向けて、政策の大綱を「重要政策」と「分野別政策」によって示します。

#### 1. 重点政策

「重点政策」は、将来像の実現にむけて、限られた財政資源や人的資源を効率的・効果的に活用して重点的・優先的に推進する戦略的・横断的政策として掲げるものです。

#### 2. 分野別政策

「分野別政策」は、全ての行政課題を分野別に分類して、まちづくりに取り組むための政策全般を体系化したものです。

重点政策と分野別政策は全く異なる内容のものではなく、重点政策は重点的・優先的に推進すべき分野別政策を横断的に組み込んだものです。

### \* 重点政策の4つのキーワード

重点政策は分野別政策の中から重点的・優先的に推進するものを絞り込んだものであり、市民アンケート調査に基づく市民意識の分析結果をもとに伊達市としての政策判断を加えたものを、絞り込みの根拠としています。

アンケート調査の分析によりますと、市民が最も重視している政策領域は「健康・医療」「農林水産業」などです。「健康・医療」の領域については「健康維持の仕組み」などに強い関心が示され、また「農林水産業」の領域については、「地場農産物の安心・安全」「地場の水産物を身近で買えるか」などが特に重要視されています。

これら「健康・医療」と「農林水産業」の領域に加え、地域資源を活かしながら子どもの可能性を伸ばす「教育」の充実と、伊達市発展を支える最も重要な基盤である「環境」の保全を重点政策における4つの課題領域とし、それぞれについて次のキーワードを掲げることとします。

- ①「食」・・・食のブランド化を進め、総合的な産業・文化を創造する
- ②「教育」・・・地域特性を活かした教育を進める
- ③「生きがい」・・・健康で社会に参加する喜びと生きがいを支える
- ④「環境」・・・環境保全の活動により新たな雇用を創出する

## **\*分野別政策**

分野別政策においても、重点政策における4つのキーワードに準じ、より体系的・網羅的に次の5つの領域を掲げます。

### 1. 「産業」

伊達市の基幹産業である第一次産業の一層の振興を図り、第二次、第三次産業などとの産業連携を進めます。

特に「食」をテーマとする政策を押し進めることにより、産業全体の活性化を図ります。

### 2. 「福祉・市民生活」

健康で安心できる暮らしを送るため、保健、福祉など、地域福祉と地域医療の充実に努めます。

また、防犯や交通安全、消防・救急体制の充実を図り、安全で安心して暮らすことのできる環境づくりに努めます。

### 3. 「教育・生涯学習」

家庭と学校そして地域が連携して、伊達市の特色ある教育資源を活用した取組を進めることにより、人間性豊かな人材を育成するよう努めます。

また、市民が生涯を通じて充実した生活を送ることができるよう、歴史や文化など伊達らしい特色を活かしたまちづくりを進めます。

### 4. 「都市基盤・生活環境」

伊達市の自然資源などを有効に活用するため、総合的、計画的に土地利用を進めます。また、伊達市の都市基盤と生活環境の整備水準を一層向上するとともに、農業や定住環境を支えてきた温暖な気候条件をもたらす自然環境や地球環境を保全し、都市の魅力を高めます。

### 5. 「自治」

市民参加条例の理念を活かし、市民と行政がそれぞれの役割と機能を分担しながら、地域のさまざまな課題に取り組むことができる協働のまちづくりを進めます。

また、積極的かつわかりやすい情報提供に努め、行政事務の透明性・信頼性を高めます。

# ●伊達市市民憲章

平成18年3月1日

わたしたちは、  
先人の築いた遺産と伝統を受け継ぎ、  
悠久の大地と自然の中で、  
たゆみなく歩みつづける伊達市民です。  
ここに、市民であることに誇りと責任を持ち、  
互いの幸せと限りない発展を願い、  
市民憲章を定めます。

- 1 自然を大切にし、よりよい環境のまちにします。
- 1 歴史と文化に学び、誇りの持てるまちにします。
- 1 きまりを守り、たがいに助け合うまちにします。
- 1 若い人を育て、夢と希望のあふれるまちにします。
- 1 人々との交流を深め、未来にはばたくまちにします。

## ◆解説

### [前文]

前段部分は、伊達市の特徴を表現しています。

後段部分は、市民憲章制定の意義並びに市民の決意を表現しています。

### [前文]

- 1 「自然」と「環境」で、自然をはじめ生活や教育など、様々な環境のより一層の向上を目指すまちづくりをイメージしています。
- 2 「歴史と文化」と「誇り」で、縄文文化、開拓の歴史、市民文化などを背景にふるさとを愛し将来に誇れるまちづくりをイメージしています。
- 3 「きまり」と「助け合う」で、社会生活の規範を大切にし、お互いを認め合い助け合うまちづくりをイメージしています。
- 4 「若い力」と「夢と希望」で、次代を担う子どもや若者の可能性を伸ばし、躍動するまちづくりをイメージしています。
- 5 「人々との交流」と「未来」で、地域や世代を超えた交流を通して理解を深め明日へ飛躍するまちづくりをイメージしています。

《編集・発行》

平成 28（2016）年 6 月発行

北海道伊達市(企画財政部企画課)

電話（代）0142-23-3331

U R L <http://www.city.date.hokkaido.jp/>

E-MAIL [kikaku@city.date.hokkaido.jp](mailto:kikaku@city.date.hokkaido.jp)